

第41回津市総合教育会議議事録

日時：令和2年12月21日（月）

午後2時30分開会

場所：津市教育委員会庁舎4階 教育委員会室

出席者

津市長
津市教育委員会

前葉泰幸
教育長 森昌彦
委員 滝澤多佳子
委員 富田昌平
委員 西口晶子

事務局 定刻になりましたので、前葉市長から第41回津市総合教育会議の開会の御挨拶をお願いいたします。

津市長 ただ今より第41回津市総合教育会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは、本日の協議・調整事項であります「新型コロナウイルス感染症に対応した新しい学校生活様式を踏まえた取組について」、事務局から御説明させていただきます。

学校教育課長 資料の「1 少人数学級編制に向けた取組」について、御説明させていただきます。本市では、これまでも少人数教育を推進してきました。4月、5月の新型コロナウイルス感染症による臨時休業後、分散登校を経て、6月から通常登校を再開した際には、市長自ら学校の様子を御覧になり、子ども同士の距離が非常に近い「密」の状態であるということを感じていただきました。6月26日に、市長から県知事に対して新型コロナウイルス感染症に係る緊急要望をしていただいた際に、項目の一つとして、少人数学級編制の推進を取り上げていただきました。

10月27日には、再度市長が県知事を訪問され、新しい時代の学びの環境における少人数学級編制の推進について、県から国に働きかけていただくよう要望を上げていただいたところです。国の動きとしては、文部科学省が1学級の人数を減らす方向で検討を進めていたものの、教員や教室の数が不足するのではないかという意見もあったため、そうしたことが課題となってこの議論が止まることがないようにと、市長から県知事に対して丁寧に要望をしていただきました。

このような取組もあり、国が来年度以降5年間かけて小学校の全学年を35人学級編制とする方向で、まずは2年生から進めていくことを決定したという報道が先週ありました。大変画期的なことだと思っ一方で、30人学級編制にはならないのかということや、中学校が置き去りにならないかという心配をしているところもあります。いずれにしても、この少人数教育推進の動きを大切に、今後も進めていきたいと考えております。そのためには、教室不足への対応や人員の確保等の課題をクリアして、まずは少人数教育の効果をしっかり現していかなければならないと考えているところでございます。以上でございます。

教育総務課教育財産管理担当副参事（兼）施設担当副参事 「2 教育環境の整備」について、御説明させていただきます。学校施設トイレ洋式化改修事業につ

いて、学校施設は災害時の指定避難所となっていることから、避難者が安心して生活できる衛生環境を確保するため、屋内運動場トイレ、校舎における児童生徒用及び職員用のトイレをより感染リスクの低い洋式便器へ改修します。対象とするのは、小学校31校133基、中学校13校56基、計44校189基となります。整備後の校舎棟の児童生徒用の洋式便器は、児童生徒15人当たり1基となります。また、職員用トイレについては、全て洋式化いたします。工事の進捗状況ですが、対象校が多いことから、所在の地域でブロック分けして、8校から10校を1本の工事にまとめ、計5本の工事として発注しました。5本とも11月4日に開札がありまして、同月16日付けで工事請負契約を締結し、着手しております。学校運営に支障がないよう、土・日・祝日や主に冬休み期間を利用して工事を進め、工期は令和3年3月12日までとしております。それぞれの工事について、令和3年1月20日までに、任意の4校で工事を完了し、一部引き渡しを行うと定めており、受注者の工程調整により、先行して完了している学校もございます。

続きまして、幼稚園空調設備整備事業でございます。これまで保育室にエアコンが未設置の幼稚園については、遊戯室で保育を行い、熱中症予防の対策を取ってきました。しかしながら、複数学年の保育を遊戯室で行うと、他の学年活動によって活動を制限しなければならないなど、教育活動への弊害も生じていました。また、熱中症対策と併せて新型コロナウイルス感染症対策を行う必要があることから、複数学年で遊戯室を利用している園については、年齢が低いほうの学年の保育室へエアコンを設置することで人数を分散させ、感染症対策に留意した園運営ができるものと考えております。10幼稚園、10保育室にエアコンを設置いたします。工事の進捗状況ですが、今月、10園中7園で完了しており、残る3園は1月末から2月中旬に完了の見込みでございます。

最後に、保健室空調設備整備事業でございます。保健室の空調設備については、体調不良の児童生徒が安静に休むことができるよう、普通教室等よりも前に設置を行ってきました。しかしながら、近年、冷房が効くまでに時間を要するとの報告がありましたので、現地を確認したところ、新型コロナウイルス感染症対策のための換気をするにより、冷房効果が低下したことに起因するもののほか、空調設備が部屋の大きさに見合っていないものや、年式が古く能力が低下したものが判明しました。これらを解消し、新しい生活様式に対応し、換気を行いながらも空調能力が確保できるよう、改修を計画しております。対象校は、小学校29校、中学校10校の計39校でございます。以上でございます。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 「3 修学旅行の実施」について

て、御説明させていただきます。修学旅行は、学校生活における諸活動の中でも、子どもたちにとって最も印象に残り得る極めて価値のある教育活動であると考えています。津市立の全ての小学校が、6年生で学ぶ歴史を中心とした学習を目的としていますので、例年は京都、奈良方面へ行っています。大阪に行っている学校も一部あります。また、中学校は、東京や横浜、千葉の東京ディズニーランドといった関東方面、それからユニバーサルスタジオを含む大阪や神戸などの関西方面、それから平和学習を行うために広島方面など、目的に応じて行き先を決定しているというのが例年でございます。今年度はコロナ禍の中で、学校と教育委員会が連携を密にとって、実施日や行き先を調整して参りました。現在のところ、3月に1泊2日の県内への修学旅行を計画している美杉中学校を除いて、分校を含む70校全てが修学旅行を実施いたしました。小学校は全て宿泊地を三重県内といたしまして、一部、奈良県や和歌山県に立ち寄る学校もありましたが、ほとんどの学校が伊勢志摩方面、東紀州、伊賀、名張方面といった1泊2日の県内への修学旅行を実施いたしました。実施月は、10月が一番多く31校、9月が10校、11月が5校、12月が4校となっています。中学校は、13校が県内を中心とする1泊2日、7校が山梨方面または中国・四国方面への2泊3日の修学旅行を実施いたしました。実施月は、中学校の場合は受験の関係もあり、9月が最も多く11校、10月が5校、11月が4校となっております。

また、資料にもありますように、9月補正で修学旅行支援事業といたしまして、新型コロナウイルス感染症に伴う家計支援として、修学旅行の日程や行き先の変更等による追加費用を該当校に支援するための予算、1千万円を計上しました。本事業について、現時点で27校が該当し、約170万円を執行する予定になっております。家計支援という意味で、今年度は出来る限りG o T o トラベルや、南部地域体験教育旅行促進事業及び県内教育旅行促進支援事業といった県の事業を活用するよう促したところ、小学校では旅行代金が平均約2万7千円かかるころ平均約1万3千円、中学校は平均約4万3千円かかるころ平均約2万5千円となり、家計の負担軽減につながったのではないかと考えております。

子どもたちも、例年とは違う修学旅行になりましたが、このコロナ禍の中で、皆で一緒に泊を伴う旅行ができたこと、また多くの方が感染拡大防止のため最善を尽くして対応して下さったことに多くを学び、感謝の気持ちを持って帰ってきたと各校長から聞いています。現在は各学校が来年度の修学旅行に向けて、旅行会社と調整しているところと聞いています。今後コロナの状況がどのようになっていくかわかりませんが、しっかりと学校と連携して対応して参りたいと考えています。

次に、「4 G I G Aスクール構想の実現に向けた取組①」について、御説明さ

させていただきます。津市におきましては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用できる環境を整備することで、一人一人の子どもたちが情報活用能力を身に付けられるようにし、新たな時代を担うことができる人材を育成するための取組を現在進めているところです。令和3年4月からは、各学校において1人1台端末を活用した授業や活動が実施されていくことになり、デジタル教材等を効果的に活用することにより可視化や共有化が図られ、子どもたちにとってより一層わかる楽しい授業になると考えています。また端末を活用することで、子ども一人一人の反応を即座に確認することができ、それを踏まえ、きめ細かな指導等が可能になることが予想されます。これまでのような授業形態では、自分の思いや考えを伝えることができなかつた子どもが、端末の機能を活用しながら様々な方法で表現し、教員や友達とつながりながら授業に参加することも考えられます。このように、令和3年4月から津市立の全ての学校において、1人1台端末が効果的に活用されるよう、現在、環境整備を行っています。現在の進捗状況について、ネットワーク整備から順に御説明させていただきます。

教育総務課経理・指導担当副参事（兼）香良洲教育事務所長 ネットワーク整備及び1人1台端末の購入について、御説明申し上げます。ネットワーク整備につきましては、合計契約額が3億9,481万円で、12月末までに3分の1以上の学校整備を、1月末までにそれ以外の学校整備を完了する予定です。一部、大規模改造工事実施校については除いております。

1人1台端末の購入については、8月17日に一般競争入札により業者を決定いたしました。合計契約額は9億6,272万円で、機器の数としては、小学校にiPadを1万4,493台、中学校にWindowsを6,734台、合計2万1,227台となっています。ネットワーク整備完了校から順次納品予定となっており、年度内には全ての学校で納品完了を予定しております。

続きまして、「4 G I G Aスクール構想の実現に向けた取組②」の大型テレビの購入について、御説明申し上げます。大型テレビは、教員の研修及び教員と児童生徒の双方向型授業展開を可能とするために購入するもので、11月5日に指名競争入札を実施し、業者を決定いたしました。合計契約額は1,388万円となっています。設置数につきましては、小学校が58台、中学校が25台、合計83台で、2月末までに全ての学校への納品完了を予定しております。以上で説明を終わります。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 続きまして、G I G Aスクール支援員の活用について、御説明させていただきます。9月補正で派遣に係る予算

2, 475万円を計上し、10月13日に指名競争入札を実施し、業者を決定いたしました。10月21日から8日間、GIGAスクール支援員に対する研修会を行いました。その後、10名の支援員が一人あたり原則2中学校区を担当し、端末活用研修会や端末を活用した授業での支援、各教員のニーズに応じたサポート等を行っており、学校の中で端末を活用した授業等に対して、積極的な動きが出てきているところでございます。具体的には、現在、PCR検査で陰性でありながらも2週間自宅待機になった子どもたちがいるのですが、そういった子どもたちに対して、オンラインを活用した学習が実際に行われています。また、津市e-Learningポータルが日常の家庭学習で使われるようになったり、先日は四日市と津市の2つの小学校が修学旅行をきっかけにオンラインで遠隔授業を行ったりと、ネット環境を活用した取組が、各学校で展開されるようになってきました。

また、Wi-Fiルータの購入については、臨時休業等緊急時の家庭学習環境確保のために端末を活用したオンライン学習を行う際、生活保護等の経済的な理由により環境整備できない低所得世帯に対して、モバイルWi-Fiルータを貸与するための購入費用1,530万円を、12月補正で計上いたしました。議決されましたら、年度内にルータ1,530台を購入し、緊急時に対応できるよう準備して参りたいと考えております。また、国は学習用のデジタル教科書の導入についても方向性を示しています。令和3年度からは、特化研究プロジェクト事業において、1人1台端末を持ち帰って家庭学習することを想定した取組についても、モデル校において、研究して参りたいと考えています。

津市長 コロナという括りで4点の報告がありましたので、この後自由に御議論いただきますが、少し時系列がわかりにくかったので、追加で申し上げます。最後の4番については今年度当初から始まっている話で、ネットワーク整備については、繰越明許と書いてありますが、これは昨年度の最終補正予算です。それが繰り越されて、今年度発注されているという状況なので、このGIGAスクールに関わる話は、かなり早い段階で国の大幅前倒しを実現してきたことになります。

1人1台端末は、国から必要数の3分の2について1台あたり4万5千円の補助があるので、残り3分の1も一緒に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使って購入することにし、津市では約2万1千台を一気に整備することになりました。下の段に9月補正、12月補正とありますが、その後、国が様々な補助制度を創設したり、先生の手元パソコンを映し出す大型テレビが古くて見えにくいので、更新が必要だったりしたため、その都度、予算を計上させていただきました。

次に、3番の修学旅行は、9月補正の段階で見通しがつきませんでした。変更があっても保護者負担にならないよう支援することにしました。

そして、2番の教育環境の整備に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を充てていくところまで踏み出しました。幼稚園の空調から始めたのですが、トイレについては避難所としての利用を踏まえ、衛生面に配慮するために、保健室の空調については換気をしながらでも温度の調節ができるようにということで、整備することにしました。

1番の少人数学級については、以前から一貫して要望してきましたが、国の大臣折衝により、公立小学校の学級編制基準を35人に引き下げることが決まりました。市長会や知事会からかなり声を上げてきましたので、その声が届いたのだと思います。

時系列の面から補足いたしましたので、どうぞ御自由に発言をお願いします。滝澤委員、いかがですか。

滝澤委員 コロナに関し、様々な対応をされたことがまとめられておりますが、非常に苦慮しながら進められてきたと思いますので、まずはその行動力に敬意を表したいと思います。

1番の少人数学級編制については、最近のニュースで、国がやっとならめたとのことだと思っておりますが、35人以下の学級編制ということで、人員の確保や施設の面で本市にはどれぐらい影響があるのでしょうか。少子化に伴って、子どもが少ない学校では、すでに35人以下の学級も結構あるのではないかと思います。今後の子どもの数の見込みも合わせて、これがどのような影響を及ぼすのかということをお聞きしたいです。それから、本市が求めているのはもっと少ない人数だと思います。35人学級になったことによる効果が無ければ、さらに前には進めていけないと思いますので、その辺りの考えも含め、教えていただければと思います。

津市長 直前に35人と決まったものですから、資料が間に合っていないのですが、35人のシミュレーションは立ててあります。お答えできることがあれば、お願いします。

学校教育課長 以前、市長に言っていただいて、シミュレーションしてみたことがあります。ちなみに県にも確認をしました。県として、きちんとしたことはまだ言えないということでしたが、担当レベルでは、いろいろなシミュレーションをしていると聞いています。シミュレーションとは何かと言いますと、単純に考えて、来年度、津市は小学2年生を35人学級にすることになるのですが、これ

だけを考えますと実は大きな影響はありません。なぜかという、2年生は三重県の少人数教育推進事業を活用して、35人学級を元々想定しておりましたので、実はやろうとしていたことが定数化されるだけということになります。ですので、加配が少なくなつて、定数化されるだけなので、来年度に限っては、それ以上のことはないと思います。ただ、県がこれから何と言ってくるかわかりません。今、1年生は1クラスが標準法で35人となつており、三重県ではそれを30人にしているのですが、これが継続されるのか、あるいは元々三重県は2年生も対象にしてきたので、例えば3年生に加配しようということにならないだろうかというようなことです。三重県の対応には、いろいろなパターンがあると考えております。

来年度については今、申し上げたとおりですが、では、その次の年以降はどうかと言うと、恐らくどの学年においても、この制度によって、多くて7、8学級が増になると考えています。ざっとした見込みですが、5年後まで全学級でそれぐらいの増え方をすると思っております。教室数については、特別支援学級の増減ということが別の要素で入ってきますので、正確な数はわかりませんが、施設担当と話を詰めていく必要があると思っております。問題は人員ですが、先ほど申し上げたように、突然膨大な数が動くわけではないと思っております。どちらかと言うと、一般的に言われているように、質が問題であり、いかに良い先生を集めるかということが課題になってくると考えています。

津市長 毎年、7、8学級増えてくるということですか。それとも7、8学級増えたらそれがそのまま上がっていくだけなので、それ以上は増えないということですか。

学校教育課長 現在小学校が49校ありまして、いろいろな学級数の学校があるわけですが、35人学級になることによって学級増になる学校が何校ぐらいあるか見てみました。そうすると、差はあるのですけれども、少ない学年だと4、5校、多い学年だと7、8校ぐらいありました。それが、毎年継続していきます。今まででしたら、2年生で終わる少人数学級が、3年生になつても4年生になつても継続されるというかたちで維持されながら、新しく入ってきた子どもたちの学年も35人学級で進んでいくということになります。

津市長 計算上、1年に7校で学級が増えるとする、7人先生が必要ですよ。その次の年もまた新たに7人必要なのですか。

学校教育課長 もし子どもの人数が減少することがないとすれば、7人ずつ増

えていくイメージになります。

津市長 今の1年生が6年生に上がるまで、7人ずつ増えていくのですか。

学校教育課長 5年間かけて、6、7人ずつ増えていきます。

津市長 それにしても7×5で35人ですね。

学校教育課長 しかし少子化もありますので、実際にはそこまで増えないと考えております。

津市長 今の教員の定数が約1,200人なので、それに対して35人というのは小さな数ですよ。ですから、すごく大きなことがなされたという感じを持ちながらも、小さな一歩ではないでしょうか。

滝澤委員 特別甚大な影響があるというわけではないのですね。

津市長 そうですね。

教育長 効果のお話を少ししたいのですが、私たちは30人学級を望んでいましたので、35人ではどうなのかということです。1学級40の定数を35にするということは、例えば今まで2クラスだったのが3クラスになるなど、実質は30人程度のクラスになっていきます。35人を定数にしたら35人のクラスになるかと言ったらそうではなくて、実際は30人くらいになっていくので、人数的には非常にいい数になるのではないかと考えています。あまり人数が少ないと、集団で何かする際の効果がどうかということがありますので、25人から30人くらいが適した数ではないかと思えます。35を定数にすると、実際の人数は、ある程度それに近い数になると思っています。

教室の問題については、立成小など非常にぎりぎりの学校もあるのですが、多くの学校で空き教室があります。ですので、来年度は大丈夫ですが、今後必要な教室数がどうなるか、きちんと見ていかないといけません。

それから、この話が影響するのは、現在の小学1年生からで、小学2年生以上は関係してきません。今の小学2年生以上はこのままずっと上がっていくだけなので、ずっと30人にはならないのです。今の小学1年生より下の子どもたちには恩恵がありますが、小学2年生以上の子どもたちにはないので、それについては、どうかと思うところはあります。

滝澤委員 大きく報道されているので、少人数化が実現すれば、適正な教育規模が確保できて、教育効果が上がるだろうという一般的な期待があると思うのです。測定したり、評価したりするのは非常に難しいのですが、学校現場において、教育の質が向上したか、いじめが少なくなったか、学力が向上したかというようなことについて、市民目線で指摘される可能性もあると思います。やはり1クラスの人数が少なくなればなるほど教員の目は行き届きやすくなるので、いじめや大きな問題、事故が起こらないような学級にしていかないと、市民の目は厳しくなると思いますので、ぜひともよろしくをお願いします。

津市長 確かにそうですね。西口委員。

西口委員 まず35人学級についてですが、4月からコロナの関係で学校の休業や再開があり、その際に家庭訪問をしていた学校の先生から話を聞くと、1人でも子どもの数が少ない方が、先生たちもきめ細かい教育ができるということでした。ですので、年次進行ですが、35人学級が実施されていくということは大きな一歩だと思っています。

人材確保については、少子化に伴って教員数に余裕ができたり、少人数指導のため、すでに加配されている教員を活用できたりするので、大幅な増員にはならないという新聞報道を見ました。本当に目指している少人数教育を実現させていくときには、人材や教室の確保など、さらにもう一步しっかり見ていかないといけないと感じました。ありがたいことに、三重県は少人数教育推進事業をずっとやってくれています。小学1、2年生を対象にしていますが、これを今回、国の決定があったからやめるのではなくて、小学3年生も対象にしてほしいとか、4年生、5年生、その先のことも配慮してほしいとか、そういった要望をさせていただくよう、市長に引き続きお願いしたいと強く思っております。

津市長 加配が定数化して、三重県が儲かっただけという話になってしまっただけとはいけないということですね。少人数教育推進事業の今後の取組はどうですか。

学校教育課長 おっしゃっていただいたとおりで、学校もそのことを望んでいると思います。私たちも効果をわかりやすく示せるように、努力していきたいと思っております。

津市長 小学校と中学校で分けられてしまったので、中学校が来年どうなるかも気になります。中学校に加配を少し回してもらおうというようなこともあるか

もしれませんね。富田委員。

富田委員 3の修学旅行の実施についてですが、私の子どもが小学6年生で、10月に修学旅行へ行かせていただきました。資料にあるような修学旅行の「ねらい」をきちんと達成できたかなと思っています。行き先が三重県内になったことで、体験の数も増えたとし、三重県は非常に歴史や文化が豊かな土地なので、県内の様々なことについて学べて、親としては通常と比べても非常にいい修学旅行になったと感じているところです。

ただ、修学旅行以外の様々な「ねらい」を持つ学校の各種行事、子どもたちが成果を発表したり、地域の人と交流したりする場が、今年度は非常に少なくなっているという状況があります。修学旅行は注目されやすいのですが、その他の各種学校行事をどのように確保していくかということについても、予算化したり、あるいは学校同士でノウハウや知恵を出し合ったりして、互いに共有しながら、試行錯誤するというような取組が、今後広がっていくと良いと思いました。

津市長 その他の学校行事について、お話がございましたが、現状をどうぞ。

教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 一学期の職場体験学習や、二学期の運動会、体育祭、文化祭といったものが、今年は例年と同じようにできなかった状況があります。職場体験学習につきましては、地域の企業や保育所、幼稚園などに子どもたちが行くことになるので、県内どこも同じかと思いますが、津市も一斉に中止させていただきました。その他の運動会、体育祭、文化祭については、何らかの変更を加えたかたちで実施してもらいました。工夫の仕方は学校によってそれぞれで、例えば中学校の文化祭ですと、例年はコーラスの大会を兼ねて実施するのですが、今年度は集まって歌を聞くのが難しい状況なので、コーラスをする学年だけが体育館に入って、オンラインで保護者や各教室に配信した学校もあります。今回は、コーラスをセーブした学校もありましたので、先ほど委員がおっしゃったように、今年度工夫したことを検証して、いろいろな方法があることを学校間で共有し、来年度以降、万が一というときのために、整理していきたいと思っています。

富田委員 よくテレビなどで取り上げられることの一つに、児童会を中心に子どもたちが発案をして、地域の人も巻き込みながら普段とは違ったかたちのことを実現するといったことがあると思います。これまで行事というのは、伝統的に受け身でやっていましたが、子どもたちがそうしたことに能動的に関わることで、主体性が構築されていくということもあります。今まで見えなかったやり

方によって良い効果をもたらされることもあり得ると思いますので、そういったことも考えていただくと良いかと思います。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 ありがとうございます。

津市長 では、他にいかがですか。滝澤委員。

滝澤委員 G I G Aスクール構想についてですけれども、マスコミ等でも幅広く公表されておりますし、保護者にもおそらく学校から発信されているのではないかと思います。それで、情報を発信したときに、保護者から懸念や心配の声があったのか、あるいは子どもたちからどのような反応があったのかを教えてくださいたいです。それから、もう一つ、大型テレビの購入は、本市独自の取組ですか。これは非常にいいと思います。やはり、大型テレビで見るのと小さな画面で見るのは全然違います。大人数の研修や会議で、これがあるのとないのでは全然違うので、特に研修には、他の関連ソフトも整備していただいて、すぐに運用できるように考えていただきたいと思います。

津市長 保護者サイドの反応ですね。どうぞ。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 保護者に対しましては、各学校で様々な機会を設け、直接伝えたり、お便りなどで発信したりしていただいているところです。先月21日のPTA連合会の研修会の際には、教育委員会の担当者が参加させていただきました。実際に子どもたちが今後授業で使うiPadを持参して、その場でみなさんに使っていただき、こういう授業をしていくということを1、2時間くらいかけて研修させていただきました。

実際にロイロノートを使ってもらったり、アプリの使い方を説明したりする中で、御意見として多かったのは、子どもたちがインターネットにつながる危険性や、リテラシーの問題でした。「家庭でも注意していかないといけません、学校でもしっかりと指導をお願いしたい」ということでした。

それからもう1点、家庭にWi-Fi環境がない子どもたちが、今後家庭で端末を使うようになったときにどうするのかという意見もありました。

特にセキュリティやリテラシーの問題で、犯罪に巻き込まれたり、友達に悲しい思いをさせたりすることのないようにしたいという御心配の声が一番多かったと思っておりますので、そこを家庭の御協力を得ながらしっかり進めていきたいと思っております。

滝澤委員 わかりました。子どもたちがインターネット等に接するにあたって、モラルや使い方をしっかりと教えていただきたいと思います。そういったことは道徳教育の中で教えると同様なのですが、道徳の時間だけではなく、実際にタブレットを使っているときにも、常時忘れずに教えていかないといいと思います。マナーなども、実際の現場で教えていただく方がいいと思いますので、よろしく願いいたします。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 ありがとうございます。

津市長 西口委員、どうぞ。

西口委員 今、ちょうど二学期末を迎え、1月に三学期が始まりますが、この冬休みを子どもたちがどのように過ごすのか、大変心配しています。家庭内感染が大きな割合を占める中で、三学期の始めは基本に戻って、慎重に進めてほしいと思います。

そのような中で、GIGAスクールを来年4月から突然スタートするのではなく、先ほどの説明にあったように、自宅待機となった子どもにオンラインで授業をするなど、様々なかたちでできる限りの試運転をして、来年度に向かってほしいです。前倒しができる部分があるのならば、それをしながらスムーズに進めてほしいと、切に思っております。

三学期のスタートは、手洗い、マスク、換気など、基本に戻ってほしいのですが、私が一番気になっているのは、手洗い場です。子どもたちが一斉に手洗いにいき、一番「密」になりやすい場所ですので、数が足りているのか、改めて確認してほしいと思います。

津市長 手洗い場について、どうぞ。

教育総務課教育財産管理担当副参事（兼）施設担当副参事 御意見ありがとうございました。手洗い場について、全国的にはいくつか取り組んでいる市町があると聞いていますが、津市では、まだそこまで至ってはいません。体育館だけは、数を拾いあげていますが、それだけでもかなりの数があります。来年度も感染対策の予算措置がされる可能性がありますので、校舎の方も数を拾って、まずは現状把握に努めていきたいと思っています。

西口委員 やはりマスクと手洗いが大事と言われている中で、手洗い場をきちんとしておくことは大事だと思いますので、よろしく願いします。

教育総務課教育財産管理担当副参事(兼)施設担当副参事 ありがとうございます。

西口委員 コロナに関して、私がいつも思うのは、感染してしまった子を含めて、全ての人を大事にするという人権感覚を、もう一度きちんと育てていかなければならないということです。誰もがコロナに罹りたくて罹るわけではないので、家庭や地域と一緒にあって、津市の教育としてのベースをきちんと持って進めてほしいと思います。

津市長 本人が感染した、あるいは家族が感染して、本人が濃厚接触者として2週間出席停止になったという小・中学生が複数出てきていますけれども、人権を守るという観点から、いかがですか。

学校教育・人権教育担当理事 実際に対象となる子どもが出た学校については、人権教育課としっかり連携をとり、出席停止期間終了後に、その子どもたちを学校に迎えるにあたっては、事前に校内研修を開くなどの対応をとっています。皆が共通理解しておくべきポイントについて、教材を用意して、感染した人や周りの人の思いをしっかりと理解したうえで、子どもたちを迎える努力をしております。地域の方にも、このような取組をしていることを発信し、地域の方にも同じ方向を向いて子どもたちを見ていただけるよう、進めております。

西口委員 対象となった学校だけではなくて、全ての学校で取り組まないと広がっていかないと思うので、その視点を大切に、基本に返って取り組んでほしいと思っております。

津市長 富田委員。

富田委員 G I G Aスクール構想のところでは2点あります。

1点目は、先ほど滝澤委員がおっしゃったことと重なりますが、ICTを活用した教育というのは、ほんの数年前までは視力の低下や、運動能力・体力の低下、コミュニケーション能力の低下につながるのではないかなど、ネガティブな意見ばかりでしたが、コロナによって、ポジティブな方にくるっと反転しました。G I G Aスクール構想が全国一斉に進むようになって、ネガティブな意見を表立って言いにくくなっているような気がするので、PTA聯合会の研修会で、実際にどのように進めるかを説明していただいたのは、大変いい取組だと感じま

した。一方で、それ以外の保護者たちは、様々な不安を持っていると思うのです。ですので、例えば、アンケートをとって意見を集約し、それに対して津市はこういう取組をするので大丈夫ですよ、と安心してもらえるような発信をすることが必要ではないかと思いました。

2点目としては、例えば子どもが濃厚接触者になって家庭学習をしなくてはならないときに、その家庭学習のあり方は、オンデマンドでやるのか、ライブ双方向でやるのかという点はいかがでしょうか。オンデマンドの場合は、動画やペーパーの資料、e-Learningといったかたちになり、ライブ双方向の場合は、Zoom等を使用するかたちになります。Zoomの場合には、教室と同時並行で、家庭でも学習することになるので、その場合、また別の機材やノウハウが必要になってくると思います。その辺りは、今のところしないと考えるのか、ライブ双方向というのも選択肢としてあるのか、お聞かせいただけたらと思います。

津市長 どうぞ。

教育研究支援担当参事（兼）教育研究支援課長 市長がおっしゃったように、濃厚接触者になったために、陰性であっても2週間自宅待機になった子どもが何人か出てきております。保護者と相談して、家庭のインターネット環境や学年にもよりますが、中学生であれば、Zoomでできる限り一緒にライブで授業を受けてもらうようにしている学校もあります。家庭にZoomが使える環境がない場合や学年が小さい場合は、オンデマンドで、津市e-Learningポータルコンテンツをおうちの方と一緒に見ていただくようにしている学校もあります。

全ての学校がZoomでのライブと、オンデマンドの両方を併用できるようにするため、現在、GIGAスクール支援員と指導主事が学校の環境を整えているところです。Zoomを使用して、ライブで授業をするというのは非常に難しいと思っていたのですが、休んでいる間も子どもたちが安心感を持って友達と関わるができるということで、保護者からも非常に好評です。まだそのような取組をしていない学校にも広めていくようにし、どこの学校でも対応できるようにしたいと思っています。ただ、陰性であっても、濃厚接触者になったことを公表してほしくないという保護者の中にはいらっしゃいますので、ライブで授業をするのが難しい場合もあります。そういった場合には、どうにかたちで2週間つなげていくのが良いか、保護者と丁寧に話をさせていただくなど、それぞれの事情に応じて対応しています。以上です。

富田委員 ずいぶん進んでいて驚きました。とても積極的に様々なことに取り組まれていることがよく分かりました。大学でもやってくれないかなと思います。

津市長 富田委員の御心配は、技術的な面で、学校の先生たちがうまくICTを活用できるかという点だと思いますが、いかがですか。

教育研究支援担当参事(兼)教育研究支援課長 堪能ではない先生もいらっしゃいますが、どの学校にも1人は堪能な先生がいらっしゃいますので、その先生に教えてもらうようにしつつ、指導主事やGIGAスクール支援員が学校へ行って、実際に体験してもらいながら技術を身に付けていただいています。Zoomは研修会で使うことによって、子どもたちに対しても使えるようになってきているという手ごたえがありますので、地道に学校へ足を運んで、先生たちに実際に使ってもらうような研修会をしているところです。少し手ごたえは感じていますが、まだまだだと思いますので、引き続き頑張ります。

津市長 滝澤委員。

滝澤委員 Zoomのハイブリッド会議ですが、結構ノウハウが要ると思います。技術的な問題もありますが、議論に熱中していると、会話に入っていない人がいることを忘れてしまうのです。一部の人だけで話していて、最後にオンラインの参加者がいたことを思い出すというようなことがあって、慣れていないこともあるのですが、司会をする人、つまり先生は常にその子に意識を向けながら授業をしないとイケないので、その辺りのノウハウも試行錯誤でやっていただきたいと思います。

津市長 オンラインで参加する方も、会議している場所の雰囲気がわからないので、乗っかりにくいのですよね。

滝澤委員 そうなのです。雰囲気が違うので、ハイブリッドは結構難しいです。

津市長 難しいですね。それから、富田委員がおっしゃったように、子どもの視力は大丈夫だろうか、学校で変なサイトにつながっていないだろうかといったような保護者が持たれる様々な心配事に対して、このように取り組んでいるということは、積極的にPRしていかないといけません。突然、子どもたちに1人1台のタブレットが配られるわけなので、そもそもタブレットにはキーボード

が付いているのかといったような、本当にシンプルな質問も出てくると思います。そういうことも含めて丁寧にPRしないと、スムーズに一斉スタートできないと思いますので、よろしくお願いします。

話は変わりますが、トイレの洋式化は5年ぐらいの計画を立てて進めてきたのですが、前から避難所のトイレが気になっていて、体育館のトイレが後回しになっていたので、今回がちょうどいいタイミングになりました。たまたま避難所もソーシャルディスタンスを取らなければいけないということで、今まで1人あたり1平米で定員の計算していたところを、2平米でするようになりました。定員が半分になるので、避難所開設の際、校舎も開放することになるため、同じ理由で校舎のトイレも洋式化しようという話が進みました。平成22年の小中学校の児童生徒用トイレの洋式化率は22.3パーセントだったのですが、現在は58.4パーセントになっており、さらに今回、189基が改修されると63.2パーセントになります。ようやく、3つに2つくらいは洋式トイレになりつつありますので、もう一息という感じがしてきました。とにかくトイレの洋式化はとても大事なことだと思いますので、これからもしっかりと進めていきたいと思えます。

よろしいですか。では、他にないようですので、事項書1の協議・調整事項は終了いたします。事務局、お願いします。

事務局 事項書2の「その他」に入りたいと思いますが、何かございますか。よろしいでしょうか。それでは、これを持ちまして本日の事項は全て終了いたしました。前葉市長から閉会の御挨拶をお願いいたします。

津市長 年末のお忙しいところ、ありがとうございました。以上を持ちまして、第41回津市総合教育会議を終了いたしますが、次回は、令和3年度の様々な事業に向けて協議をお願いすることになります。どうぞ、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。